

＝ 市史編さん便り＝ 【45号】 令和5年10月30日(月)発行

*****土佐清水市教育委員会・市史編さん室

「土佐清水市立市民図書館歴史講座」開催

一中浜万次郎講座初級編

10月29日(日)13時30分～15時、土佐清水市立市民図書館・2階会議室にて標記講座が開催された。講座は、土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室・田村が担当。講座には、定員20名のところを23名が受講、盛況のうちに講座を終えることができた。



【中浜万次郎講座の内容と流れ】

(1) あしずり港に設置「萬次郎少年像」(1996年濱田浩造制作)からスタート

この像は、1842年1月14日、万次郎等5人が命がけで伊豆諸島最南端の火山島「鳥島」へ上陸した直後の場面であることをまず確認。

像の5人の人物の特定を行い、それぞれの人物がその後どのような人生を辿ったかについても、受講者と問答形式で確認していった。

(2) 万次郎の人生の概観を次の4つのステージに分類

第Ⅰ期 0～14歳 「生誕から鳥島遭難まで」

第Ⅱ期 14～24歳 「米国での生活から琉球上陸まで」

第Ⅲ期 24～44歳 「帰国後の幕末から近代初期にかけての活躍」

第Ⅳ期 44～71歳 「隠居生活」

※今回の講座では、**2期と3期**について詳しくその概要を学習した。

(3) 鳥島救助後～米国生活～捕鯨～琉球上陸まで

～第Ⅱ期～

ジョンハウランド号 1841年6月27日（太陽暦）**14歳**

その後、約2年捕鯨⇒ニューベッドフォードへ帰港 1843.5.6

オックスフォードスクール（小学校）1843.5.7入学 ABCから学ぶ **16歳**

ユニテリアン教会（に変更）万次郎が礼拝で人種差別を受ける 1844頃 **17歳**

バートレット・アカデミー 航海術、測量術を学ぶ 1844～ **18歳**

『ボーディッチ航海書』学ぶ

たる屋に奉公 辛抱強く働く 1845.2 **19歳**

フランクリン号（アイラデービス船長の誘いで捕鯨：約3年4か月）

19歳～22歳

カリフォルニア金鉱山掘り 1849.9.23～1850.9.7 約1年 **22歳**

アドベンチャー号 ハワイで購入（デーモン牧師の仲介）

サラ・ボイド号（茶積船、上海へ向かう途中、琉球に下船させる約束）

1850.12.17 ハワイ出港 1851.2.3 琉球小渡浜下船 **24歳**

アドベンチャー号にて

その後、高安家⇒薩摩⇒高知⇒中浜（1852.11.16）**25歳**

↑9個の万次郎に関する事項を時系列に並べるワークショップを行う。

(4) 琉球上陸～幕末・明治初期の活躍～脳梗塞になるまで

～第Ⅲ期～

『ひょうきゃくだんき 漂客談奇』……土佐藩の万次郎等3人からの聞き取り内容を担当の吉

田文次がまとめたもの。1852年頃 **25歳**

『ひょうせんきりやく漂異紀畧』……土佐藩の万次郎等3人からの聞き取り内容を土佐藩絵師

川田小龍が挿絵をつけてまとめたもの。1852年頃 **25歳**

1853 黒船来航

1854 黒船来航……日米修好通商条約締結

軍艦教授所教授 1857.3 **30歳**

『ボーディッチ航海書』 翻訳 1857.7 **30歳**

捕鯨指導のため箱館へ 1857.11 **30歳**

『えいべいたいわしょうけい英米対話捷徑』 1859.7～10 日本初の英語入門書 **32歳**

咸臨丸で米国へ 日米修好通商条約の批准のためサンフランシスコへ

1860.1.19 浦賀出港～2.26 サンフランシスコ着

～1860.6.23 浦賀着 **33歳**

小笠原調査・開拓・捕鯨 1862.1.3～1863.5.9 **35～36歳**

ホーツン事件 1863.6.8 強盗未遂の外国人を逮捕 **36歳**

鹿児島開成館教授（出港） 1865.11～1867.11. 2か年 **38～40歳**

開成学校教授（東京大学） 1869.3～ 約1年間 **42歳**

独仏戦争の欧州視察 1870.9.24～1871.1.8 **43～44歳**

船長との再会 1870.10.30 船長宅に1泊 **43歳**

1870.7～1871.5 フランス帝国とプロイセン王国の間で発生した戦争。ドイツが近隣国と同盟を結びフランスに圧勝した。

↑13個の万次郎に関係する事項を時系列に並べるワークショップを行う。

（5）まとめ

今回、万次郎人生の概観の第Ⅱ期「鳥島救助後～米国生活～捕鯨～琉球上陸まで」、第Ⅲ期「琉球上陸～幕末・明治初期の活躍～脳梗塞になるまで」にスポットを当て受講者とともに考察していった。

「木を見て森を見ず」の喩えがある。万次郎の人生の細部を事細かく研究していくことも重要ではあるが、広く浅く全体の概要を見渡すことも同じくらい必要なことだと思う。その全体像の中から、万次郎の真実の姿を洗い出していくことも有効な万次郎研究の一つだろう。今回、小中学校の教職員やOB教員の方が受講していただいた。万次郎は、探究学習のための「ふるさと教育」の良質な教材となり得る。学校教育においても「郷土の先人」中浜万次郎から多くのことを学んでほしい。